



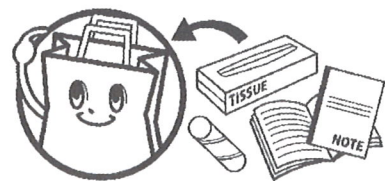
2025年10月29日 議会改革検討会議 甲府市議会視察



2026年1月13日女性議員の会しずおか～なないろの風臨時総会



えこはま(西部清掃工場の環境啓発施設)にて、紙パックリサイクルを届ける



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収へ



ケケケの元気マルシェでうずらのゆで卵早むき選手権に参戦。1分半で5個もむいて、参加者の中で1番!!



蕎麦打ちに挑戦

めぐみ応援・浜松市政向上委員会 2025年度決算 2025年1月1日～12月31日

1、収入

項目	金額(円)	備考
前年度繰越金	281,031	
はてな会より	1,634,028	
会費・寄附	196,000	ありがとうございます
利息	398	
合計	2,111,457	

*はてな会は、鈴木恵本人が代表の資金管理団体。鈴木恵の自己資金のみの寄附で成り立っている。

2、支出

項目	金額(円)	備考
事務所費	844,697	事務所家賃、電話、経理代行費等
光熱費	62,797	電気、水道
消耗品	14,523	
ニュースレター発行費	616,955	ニュースレター制作費、郵送料
合計	1,538,972	

3、次年度繰越金572,485円

【寄付のお願い】

めぐみ応援・浜松市政向上委員会 代表 佐藤とよ子
事務所経費、ニュースレター作成費・送料などに
大切に活用させていただきます。

●郵便振替

めぐみ応援・浜松市政向上委員会

口座番号 00810-3-127220

●銀行振込

静岡銀行 名残出張所(店番366)

普通預金 0317649



浜松Happy化計画 レポートPart2

Happy plan for
Hamamatsu!!



見えにくい問題に目を向ける

こんにちは。いつも鈴木めぐみを応援してくださり、ありがとうございます。

人間は、「自分が見えているもの」には関心を持ちやすいですが、見えていないこと、数字で表されていないことには関心が向かない傾向があります。しかし、見えてはいないけれど、実際には存在し、大変重要なものが存在しています。

例えば児童虐待問題も以前から存在していましたが、親のしつけの一環だとして見えにくい問題、見ようとしないう問題でした。それが制度化され、数字に表されることで、大きな問題となり、政策が実行されるようになりました。見えにくいけど大事なものを見える形にしていくことは政治の大きな役割だと考えています。

私は、声をあげにくい、例えば子どもや少数者の声にも耳を傾け、解決していくそんな議員になりたいと日々活動しています。

浜松市議会議員 鈴木恵



11月議会 一般質問

人権と多様性の尊重を

めぐみ



人権を尊重し多様性を認め合う差別のない社会づくりについての中野市長の思いと、昨今の外国人や性的マイノリティへの差別発言、誹謗中傷についての市長の考えを伺う。

質問

【中野市長】

私は、多様性を認め合う地域づくりは、本市が持続的に発展していくための大きな推進力になると考える。誰もが自分らしく生き生きと活躍できる社会の実現を目指していきたい。

外国人や性的マイノリティへの差別発言、誹謗中傷は決して容認できるものではない。差別発言、誹謗中傷が起こる要因として、外国人や性的マイノリティに対する理解が不足していること、当事者が声をあげにくい環境であることなど挙げられる。人権教育・人権啓発活動をさらに推進し、相談支援体制の充実が重要と認識している。

めぐみ



当事者が声をあげられないからといって、差別していいわけではない。人権を理解していなければ、自分の人権を侵害

意見

されても気づかず声をあげることができないし、他の人の人権も尊重できない。市をあげて、人権と多様性の尊重に取り組んでいくことを要望する。



鈴木めぐみ
公式LINEをはじめました！
<https://lin.ee/94Mh5B9>

編集・発行 めぐみ応援・浜松市政向上委員会

浜松市中央区半田山 2-5-10 TEL/053-431-1511
MAIL/megu@megumi-happy.net FAX/053-522-8234
HP/www.megumi-happy.net ※めぐみ応援会員募集中・内部資料

浜松市議会議員 鈴木恵

【自宅】浜松市中央区曳馬 6-5-17
TEL/090-8672-8534
MAIL/meguhappynet@gmail.com



不登校から見えてきたものを

めぐみ 少子化にも関わらず、年々不登校児童生徒は増えてきている。令和6年度は、2741人で、五月雨登校など不登校気味の子どもを含めると、もっと多い数字になる。民間のフリースクールやオンライン学習などを活用する子どもも多くなり、学びの選択肢は多様化してきている。

不登校になった子どもや保護者への支援、いわゆる対処的な支援は増えてきている。しかし、なぜ不登校は増えているのか、なぜ子どもたちは学校から自ら脱出しているのかという根本的な問いについての問題認識が足りないと感じている。

不登校を、子ども個人の発達特性や家庭の問題だけを要因にしてはいけな。今の公教育が子どもたちに合っていない、ずれていることを認識することが必要だ。子どもたちが安心して学べる公教育のあり方の見直しが必要だと思うが、教育長はどう考えるのか。

【野秋教育長 答弁】

不登校のきっかけや要因とされる「不安」「学業不振」「友人や教職員との関係の問題」など、学校生活に起因するものは学校教育のあり方を見直す重要な視点となる。主体性を生かした個別最適な学びの実現、協働的な学びや体験活動の創出など、子どもにとって魅力のある教育活動が求められる。同時に、日々の学校生活を子どもの思いや考えを取り入れたものに変えていく。

今後も教職員一人ひとりが学校の価値を諦めることなく、子どもたちに伴走できるよう、多様なニーズに応じた支援体制づくりに取り組んでいく。

めぐみ 子どもが不登校になると、保護者の4人に1人が離職しているという民間調査結果がある。経済的に不安定になれば、子どもにも影響する。

質問 令和6年度の決算審査で、こども家庭部の「こども習い事応援事業」は不登校児童のフリースクールやオンライン学習の利用に対しては対象外という答弁があった。子ども家庭部ができないのなら、教育委員会が何らかの経済的支援をすべきではないか？

学ぶ権利の保障と福祉的視点で、不登校児童生徒のフリースクールやオンライン学習の利用に対しての経済的支援を行うつもりはないか。

【学校教育部長 答弁】

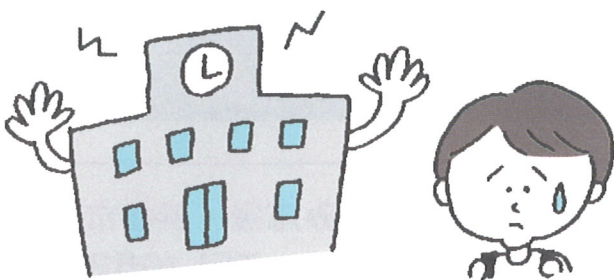
不登校児童生徒への支援は、教育分野のみならず、貧困対策や子育て支援を行う福祉分野との両面からサポートを行うことが重要と認識している。今後は、こども家庭部と連携し、経済的支援を含めた不登校支援について調整を図っていく。

めぐみ 今回、「公教育」のあり方の見直しを取り上げた。通っている学校や担任の先生によって程度は異なるが、学力、体力による優劣、序列、一律のカリキュラムや評価方法が、多様な価値観や学習ペースを持つ子どもたちのニーズに合っていないのではないのか。「学校が息苦しい場所になってきている」そんな声も聞こえてくる。

不登校の子どもたちが増え、学校を脱出しているのは「こどもの不安や発達の偏りなどに対応できていない」「こども一人ひとりに合った学びができていない」「硬直的なルールや同調圧力が学校に存在している」ということではないかと私は考える。

それに拍車をかけているのは「不登校はよくないことだ」「学校にはどれだけ苦しくても通うべきだ」という考え方。「同調圧力」「みんながやっているのに、あなたはなぜやらないの」という雰囲気子どもたちを縛りつけ、従わざるをえないような状況をつくり上げている。

学校以外の選択肢の充実とともに、学校そのものが変わること。そして、子どもたちや保護者を追い込まないために社会全体としてどう取り組んでゆけばいいか、「学校にきちんと通い、受験に成功すること」からの脱却を、学校や教育委員会だけでなく、私たちみんなが考えていくことだと思う。



11月議会
一般質問

外国人市民への生活支援を

1 3
4 2 5
数字は語る！

浜松市外国人障害者数826人 めぐみの質問で明らかに

(全国的にも珍しい調査で、国も調査していない)

826人

浜松市外国人の障害者数。
(身体障害296人、療育388人、
精神障害142人)

121人

浜松市外国人の要介護認定数。
(65歳以上の市内外国人1,505人のうち、約8%)

めぐみ 障害者手帳を持つ外国人が、外国人市民の2.73%であることも判明。市民全体の障害者手帳所持者割合は5.34%で、外国人はその半分程度だった。

市内の外国人在住者の数は3万人を超えた。この地域の大切な産業を支える人材として、ますます「暮らすこと」にも注目が集まっている。地域社会の一員として暮らせる環境を、まず整えていく必要があり、それは地域社会の安定、安全に繋がる。人権と多様性を大事にすることは、日本人を含めて市民全体のためになる。外国人市民の家族を含めて安心して働き、暮らせる環境づくりを市全体として進めていただきたいと要望する。

パラスポーツの推進を

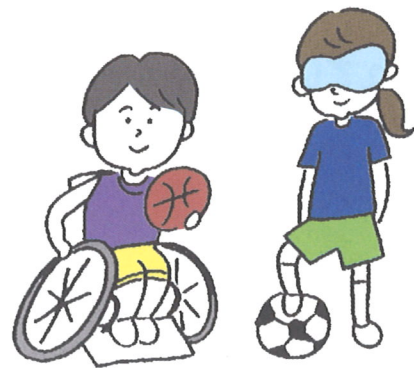
めぐみ 本市には障害児・者が「運動・スポーツをやりたい」と思った時に、優先や専用で利用できる公的スポーツ施設はなく、十分に対応できる環境が整備されていない状況だ。

障害者がスポーツをするためには、会場、アクセス、道具、指導者、ボランティアなどについて、合理的配慮が求められる。環境整備を進め、マッチングをする中間支援機関が必要だと考えるが、いかがか。

【スポーツ振興担当部長 答弁】

障がいのある方をサポートするには、一定の知識と経験のある人材の協力が必要だ。静岡県障害者ス

ポーツ協会やふじのくにパラスポーツ推進コンソーシアムと積極的に関わることで、市が支援機関として機能を果たせるようにしていく。



気候変動対策に市民の力を

めぐみ 無作為抽出(くじ引き)で選ばれた市民が、専門家等からの情報提供を踏まえて話し合い、気候変動対策をまとめて提言する「気候市民会議」が欧州各国で広がり、日本国内でも開催されるようになった。気候変動対策について、市民の意識醸成や行動変容を促すとともに、会議で出た意見提案を市の施策に活かすことができる市民参加手法だ。本市でも「気候市民会議」を開く考えはないか。

【カーボンニュートラル担当部長 答弁】

市民の気候変動対策への関心は高まっているものの、家庭部門から排出される温室効果ガスの直近の数値は、2013年度比で12%の削減に留まっている。「気候市民会議」の開催については、他都市の状況を調査研究し、市民参加のあり方や有効性などを検証した上で判断する。

めぐみ 2025年の夏も経験したことのない暑さに見舞われ、気候変動対策は待ったなしの状態だ。市民の声、行動は、行政や事業者への働きかけにもつながり、社会全体の気候変動対策の後押しになる。気候危機は、地球規模の問題ではあるが、人々が危機を自覚し、行動していくことが重要



<その他の質問>

小児・若年がん患者向けの補助金や障害児の福祉サービスの申請や面談のオンライン化について。

2月議会

浜松市2026年度当初予算案
一般会計 4,401億円
(前年度比 5.8%増)

6年連続
過去最高

力を入れていく分野

—中野市長の施政方針から—

- ・物価高対策
- ・産業振興
- ・若者や女性に選ばれるまちづくり
- ・災害に強いまちづくり
- ・中心市街地や中山間地域の振興について

重点かつ部局横断的に取り組んでいく。
新規事業88、拡充事業37、廃止事業21

CHECK! めぐみ注目!

当初予算の主な事業

たくさんの事業の中から、一部を紹介。もっと知りたい方はめぐみに声をかけてね!

<物価高対策・こども>

●子どもの医療費助成の拡げる 約44億円

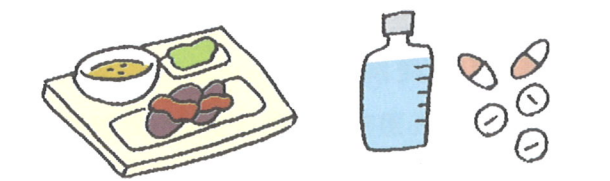
小中学生の通院費用負担を1回500円から無料に見直し内容

種別	乳幼児	小・中学生	高校生世代
年齢	0歳～就学前	小1～中3	中学卒業～18歳
入院	無料 ※食事療養費 (現在)自己負担→無料		
通院	無料 (時間外除く)	(現在)500円/回 →無料	500円/回
時間外 診察	通院500円/回	自己負担	

●学校給食費

小学校給食費は無償化へ 約26億円

中学校の保護者負担を減らすため、1食135円を市が補填する。(保護者負担は1食346円)



<復活!中心市街地活性化事業>

●都心賃貸オフィス建設に補助金交付
中心市街地にスマートオフィス等を建築した事業者に補助金を交付 補助金上限10億円

●中心市街地に自社オフィスを建設する者に補助金を交付 補助金限度1億円
※県外からの移転2億円、東京23区から移転3億円

●空き店舗に新規出店 補助上限100万円

●まちなか賑わいのイベント 1/2補助 上限100万円

●THE GATE跡地(元べんがら横丁)の整備に向けて調査・基本計画策定 2400万円

今後のスケジュール(予定)
令和8年度～9年度調査・基本計画策定
令和10年度～実施設計
令和11年度～整備工事

めぐみ

「THE GATE跡地」については、中心市街地にみどりや水を感じられるところがなく、無機質になりがち。市民の憩いの場所になって欲しいと要望した。

新しい中心市街地活性化ビジョンでは、「歴史、文化、未来に触れ、豊かさを実感する世界水準のまち」をビジョンに挙げている。世界水準になるためには、脱炭素社会を目指した環境に配慮していくことも重要だ。



<若者に選ばれるまち>

●大学生の団体が市内の地域団体と協働して取り組む活動に助成 対象経費の1/2(上限30万円)

●県外進学後のUターン就職を促進
大学生インターンシップ 220万円

●高校生が地域のNPOなどと連携し、地域課題を解決するプログラムに助成1件 15万円×3件

●高校生と保護者対象の「国内最大規模の合同企業説明会の開催」 1,650万円

●市内高校生職場体験 400万円

●企画課の中に「教育・若者連携推進担当課長」設置

<女性に選ばれるまち>

●子育て中の女性対象
託児付き1日インターンシップ、子連れで職場見学など 230万円

●働く女性向けのリスキリング講座 198万円

●女性起業支援セミナー 194万円

●女性が安心して活躍できる環境づくり補助金(製品の購入、研修会など) 630万円

めぐみ

15～29歳の女性の比率が浜松市は政令市で最も低い47.5%であり、15～24歳の女性の転出超過となっている。

先日男女賃金格差について、静岡県が全国でワースト5だったとの新聞報道があった。製造業が盛んで所得水準は高く、管理職に占める女性の割合が低い地域に格差が大きい地域が多い傾向があること。男女賃金格差が大きいことは、女性が静岡県から流出する理由の一つになっている。

女性に頑張れというだけでなく、経営者の意識改革や男性の働き方改革に目を向けての研修会の実施をして欲しい。また、男女の賃金格差の解消に向けて行政ができることを要望する。



<文化>

●新美術館基本構想策定 1,890万円

今の美術館は建築から54年が経ち、老朽化、ニーズに合わなくなっている。

コンセプト、施設整備方針、候補地や運営方法の検討を2026年度行う。市民や有識者からの意見を聞く。はまホール跡地が有力候補地となっている。

めぐみ

市民団体(オープン・ミュージアム・ラボ)が新美術館についてアンケート調査をしている。ぜひ、ご協力を。詳細はQRコードから。



浜松の新しい美術館、あなたならどんな場所にしたいですか?

<教育>

●学びの多様化学校設置に向けた有識者会議 24万円

不登校に児童・生徒の実態に合わせて、特別な教育課程を編成し、興味や関心に応じた柔軟な学びを行う学校。委員5人(大学教授、支援団体、小中学校代表者)

●部活動地域展開 令和8年9月から
認定地域クラブへの助成、経済的困窮世帯生徒への支援、ポータルサイト構築など 1億2500万円

●民間プール活用をまず、小学校5校から始める 3400万円

●学校体育館に空調設置について 6校を先行して実施 11億円

<曳馬地区関連>

●曳馬中学校改築事業実施設計 1億4700万円
地域開放スペースも作る予定 工事期間令和9年度～13年度(予定)

●曳馬地区浸水対策施設基本計画策定

●曳馬川(曳馬一丁目)河川改良

めぐみの提案・指摘が令和8年度予算につながった事業

●生活困窮世帯への習い事支援、フリースクールも対象に

●点字ディスプレイの対象年齢を学齢児以上に引き上げ

●小中学校の学校給食配膳室への空調整備など



MEGU'S TALK

【心のバリアフリー】

心のバリアフリー」というと、「心」という言葉が持つイメージから、「優しさ」や「思いやり」という観点で捉えられ、誤解されやすい。

しかし、国土交通省が使う「心のバリアフリー」の定義を読むと、優しさや思いやりじゃないんだと理解できる。

「心のバリアフリー」の3つの柱とは

①「障害の社会モデルの理解」

障害の原因は個人の心身機能にあるのではなく、社会側の障壁（物理的、制度的、文化的な壁）にあるという考え方。例えば車椅子ユーザーが階段で困るのは「歩けないから」ではなく「エレベーターがないから」であり、環境を変えて不利益を取り除くのは社会の側に責任があるという考え。

②「不当な差別的取扱いの禁止・合理的配慮の提供」

合理的配慮とは、社会生活でのバリア（障壁）を感じた際、意思表示に基づき、負担が過重でない範囲で環境を調整・対応すること。配慮というとどうしても上から目線的になるので、私的には合理的調整と言い直したい。

③「共感力、コミュニケーション促進」

共感力とは相手の立場や感情を理解・想像し、寄り添う能力のこと。

思いやりや優しさはもちろん大事だが、相手の人権を尊重する「心のバリアフリー」が溢れる浜松、社会になるよう、めぐみは力を入れていきたい。

【発達支援学級の進路について】

これまで発達支援級に在籍していると、高校には行けないとまことしやかに言われてきた。そのため、小学校は支援学級だったが、中学から通常級に変える生徒もいた。

また、発達支援級に在籍でも知的に遅れがない場合には、知的の特別支援学校高等部（例えば、浜松特別支援学校高等部）への進学はできないため、中学卒業後の進路を心配する多くの声を聞いてきた。

そこで、浜松市教育センターに確認をした。受検時に高校に提出する「調査書」は発達支援学級かどうか関係なく、通常級と同じ様式の手紙を使っている。そもそも発達支援学級かどうかを書く欄はない。そのため、自閉症・情緒の発達支援学級では、

高等学校等への進学も視野に入れた教育課程で指導している。一方、知的学級の場合は、学力に合った学年での評価となっている。

しかし、こうした情報が学校、教師、保護者に十分に行き渡っていないのが現状だ。正しい情報を学校、教師、保護者の皆さんに提供し、子どもが安心して学べるようにして欲しい。

【地域はどうなる？どうする？】

子供会がなくなる、PTAがなくなる、それによって自治会に皺寄せがきているなど、地域組織の相談がここに来て多い。

子どもの通学時の旗振りについてもいろいろな声が聞こえてくる。旗振りはあることで子どもの安全が守られる。しかし、それを誰がするのか。保護者は仕事や下の子の育児などで、出るのが大変。地域は定年過ぎても働いている人が多く、請け負う人は高齢者ばかり。

自治会は、行政からの仕事が多いが、高齢化、人材不足でアップアップしている。

防災や福祉はやはり身近な地域が大事だが、担い手がいなくなっていきなり、どうしたらいいのだろうか。



一緒に考えませんか？

<市民向け物価高対策～11月議会から>

「プレミアム付き商品券」

3000円で6000円（紙かデジタル）使えるもので、1人3口まで。1人1口は購入できるようにしたいとの説明あり。販売時期は本年6月ごろを目指す。

「生活支援商品券」

このプレミアム商品券とは別に、65歳以上の方（令和8年1月1日現在）と市民税非課税世帯の方に3000円の引換券が送られる。それを郵便局などに持っていきと商品券に引き換えることができる「生活支援商品券」がある。

引換券発送時期は本年4月ごろになる予定



プロジェクト発進中！

一緒にアクションしていきましょう！

メンバーの一人として、めぐみも活動しているプロジェクトを紹介。聞いた声が一般質問や委員会での質問に繋がることもある、大切なもの。

●支援級プロジェクト

発達支援級に通う児童・生徒が増えてきているけど、中学卒業以降のどのような道があるのか、どう選択したらいいのかわからないという声を受けて、保護者の方たちと立ち上げた。

発達支援級に子どもを通わせている保護者の方、支援をしている方、興味を持っていられっしゃる方、参加しませんか？LINEグループで情報交換をしている。

●うみいろ そらいろ 浜松へちまプロジェクト

世界一の品質を生んだ浜松から「へちま」をつくって、つかって、浜松の美しい海と空を次世代につなげる みんなで未来をつくるプロジェクト。

浜松は、かつて世界一の品質を誇るへちま産業の地だった。産業に育てたのは、浜松市の明治の偉人、織田利三郎。そして、栽培や加工の中心地は、笠井、浜北、浜名周辺。へちまを通して、浜松の歴史を知り、へちまでグリーンカーテンやスポンジを使い、環境にやさしいまちにしていきたい。



●浜松の福祉を考える会

障害の種別を超え、当事者、支援者、保護者で浜松の障害福祉を中心に、月1回の対面ミーティング、同じく月1回zoomミーティングで福祉に関して情報・意見交換をしている。公共交通機関との情報交換会や市への要望書提出など、活発に活動している。

●浜松外国人ウエルネスを考える会

浜松市には多くの外国人市民が暮らしており、医療や福祉の現場では、日常的にさまざまな工夫や対話が行われている。

2ヶ月に1回、現場の状況や課題、取り組みについて共有しながら、立場の違いを越えて考える時間をつくっている。

●緑と運のゴミ拾い

不定期で仲間と一緒にゴミ拾いしている。情報交換しながらのゴミ拾い楽しいよ。色んなものが落ちている。



●浜松パートナーシップ連絡会

浜松市のパートナーシップ宣誓制度やセクシュアルマイノリティに関わる事業推進のために行政に協力をしながら、普及・啓発に努めている。セクシュアルマイノリティ当事者、研究者、市議会議員などがメンバー。浜松パートナーシップ宣誓制度制定に全面的に協力した。2026年2月8日市主催「浜松パートナーシップ宣誓制度5周年記念パネルディスカッション」にも協力した。



2026年2月10日 市長と話そう！浜松パートナーシップ連絡会

その他にも様々なプロジェクトに参画しています。興味があるプロジェクトがありましたら、めぐみまで連絡してね。一緒にアクションしましょう！